

もっと知りたい

武者小路実篤

あたらしいむら 新しき村

ぶんかかつどう 村の文化活動

■人間らしく生きるとは？

実篤の理想である「人間らしく生きる」生活とは、みんなで必要な仕事をする時間と、文化的な活動をする時間、どちらも大事にすることでした。

村の人々は、芸術活動にも力を入れ、個性を生かしながら生活を充実させました。



村の創立記念祭 大正11(1922)年
仮装行列やお店なども開いてにぎやかに開催された。



新しき村の人が編集し、発行した雑誌(現在も続く)

村では年に一度創立記念祭が盛大に行われ、地域の人々も一緒に楽しみました。

また、日向の新しき村には印刷所も作られ、村の様子を知らせたり、村の人が書いた小説や詩を載せた雑誌を発行したり、本の出版も行なっていました。

楽しそうだな～



村の本 良い本を安く出版したいという実篤の考えから、大正13(1924)年から昭和3(1928)年まで、15冊が出版された。日本で最初の文庫本と言われる。

■ 村の芸術活動

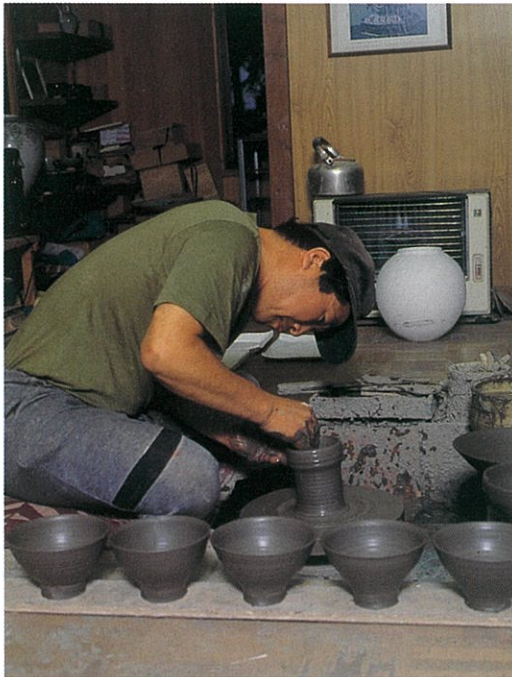
新しき村では、一人一人が創作を楽しみ、お互いに刺激し合い、高め合いました。展覧会を開いたり、劇を演じたりしました。



昭和3(1928)年、舞台「だるま」
「新しき村」の仲間が東京に作った舞台「村の会場」での演劇。
実篤(左端)が自作の「だるま」を演じている。



びじゅつかん
新しき村美術館



やきもの せいさく わたなべかねじろう
焼物を製作する渡辺兼次郎 昭和63(1988)年
新しき村には焼物の窯(泰山窯)があり、陶器も製作されていた。



「村の牛舎」渡辺修 平成7(1995)年ごろ
村の人たちは絵画や彫刻などを楽しんでいた。

かま
焼き物の窯や美術館まで！
本格的な活動なんだね！

